

## 「親の権威と子供」

人文学部 社会学科 大 内 佐 敏

日本の家族形態は、戦後、核家族へと進展し今日に至っており、それに伴って親の権威のあり方も変化して来ている。

従来は制度的に父親の権威が支えられていたが、今日では個人の資質に依存するようになって来たため、父親の権威に対して母親の権威も家庭内で占める役割に幅を持つようになって来た。最近、男性の権威が喪失の状態にあるとか、女性上位の世であると言われているが、夫婦の場合、果してその様な傾向にあるのかという点についてみることにした。

親の権威とは、父親であるなら男らしさ、母親であるなら女らしさ、それに知性、能力等といった親の持つ資質から表われるものであって、この時、親の個人的な資質が子供に受け止められ承認されたときに権威のある父親、あるいは母親という事がいえる。そして、子供のしつけの面や家庭内での決定権とか役割の分担等は、両親の権威の度合によって様々な形態を示すと考えられる。そこで、こうした権威にかかわる親子関係の調査前提として次のような仮説類型を立ててみた。

親の権威の有無は、子供から判断される場合と親自身で自分の権威を判断する場合とがあり、これらの組み

合わせによって、(一)親と子供が一致して親の權威を認めている家庭。これを親子一致型。(二)親自身が權威があると認めていても、子供はそれを認めていない家庭を子供否定型(親肯定型)。(三)親自身は自分の權威を認めていないが子供は權威があると思つてゐるものを子供肯定型(親否定型)。(四)親子共々、權威を認めていない家庭。これを親子否定型。

このように四タイプに分け、小学校五・六年生とその両親を対象に事例調査からその傾向を考察した。(父親一五〇人、母親一五〇人、子供一五〇人)。平均年齢、父親四〇・四五歳、母親三五・四〇歳。)

#### 一、叱正(子供の過失に対する注意)

まず表A―一の子供に対する叱正の役割分担についてみると、父親は「主として夫」が行なうことを理想としているのが多く、一四〇人中四二人(二八%)であった。母親からの理想は、「同等に」するべきであるとするのが四〇人(二七%)と多く見受けられた。一方子供の理想からは、表B―一のように「同等に」について五〇人(三三%)と両親が同じように分担することを望んでいることが判断される。

この点を現実について表A―二からみると、子供を注意することがかなり多いことがわかる。表A―一の父親からの現実の狀態は、「主として夫」が担当しているとする四九人(三三%)と、母親からは「主として妻」が担当しているとする五二人(三五%)とが多く、お互いに対立をみせている。子供からみた現実の狀態は、「両親が同等に」行なっているとみているのが多く、表B―一では五二人(三五%)、表B―二では七二人(二八%)であった。しかし、表B―二の子供の父親と母親の比較からは、父親の注意が「かなり多い」とするのはわずか七人(五%)であつて、母親については二二人(一五%)と母親の叱正に対する權威がまさつてゐるといえる。したがつて、ここでは父親が自分自身、權威があるとしてゐるのに反して、子供はそれを認めてはおらず、むしろ母親の權威を認めている点で、母親と子供の一致がみられ母親の權威が優位であるといえる。

## 二、高価な買物の決定

家庭経済面で多額の支出が考えられる買物について、それを決定するときに父親と母親のどちらの意見を中心にして事を運んでいるのか、また、最終決定権はいずれにあるのかという点について理想現実別にみた。

まず、誰の意見を中心にして決定するかということについて全体的にみた場合は、親子共に理想と現実の両面で「同等に」にが多く表われている。つまり、夫婦平等の話し合いによって決定していくという家庭が多いということがいえる。したがって「意見」から決定までの過程においては、親自身も、そして子供もこの権威を認めている点で一致した形がとられている。

次にこの事の最終決定における権威についてみると、表A―四の理想の面では父親が自分自身に決定権があるべきであるとしており、母親は夫にというよりはむしろ平等に決定することを望んでいる。また、表B―四の子供の理想についても母親の立場と同様のことがいえるが、現実面において夫婦ともに父親の決定権をもっとも認めているのに対して、子供はそれよりもわずかに多く両親平等に決定しているものとみている。

しかし、子供からはもう一つ、表B―三とB―四の現実面を比較した場合、「主として父」と答えたのが表B―三では五人（三四％）、B―四では五人（三九％）であって、無解答数の割には表B―四の方が父親の権威が高く認められている。したがって、最終決定権における現状は、父親の権威が強く表われている傾向にあるといえる。

## 三、信頼・尊敬度

親の話しに対する子供の信頼度および親への尊敬度についてみると、表A―五では親の話しに対して子供がかなり信頼されていると思っている父親が五十六人（三七％）、母親が七十四人（四九％）と両親共に多く、表B―五をみても両親の話しをかなり信じている子供が四三人（二九％）と信頼および尊敬度が高くなっている。

しかし、子供からみた父母別の項目からは、父親の言う事を信じることが「非常に高い」に対して四人(二三%)母親に対して六人(四%)というように母親がやや優位である点から、権威は母親にあるともいえるが、ここでは表A―五の母親が七四人(四九%)という数字をみることによって特に子供に対する母親の考えの甘さが見受けられ、逆に父親には慎重な面が窺われる。つまり、ここでいう母親の権威の表われ方は、母親の自信過剰から生じていると考えられる。

したがって、客観的立場からは母親が思っているほど母親の権威はなく、あるとすれば母親の子供に対する押し付けから生じる虚飾の権威であって、実際の権威力は薄いものである。この点は親の言付に対する子供の適応度から指摘できる。

#### 四、親の言付に対する子供の適応度

子供に対する親の言付の守られ方は、現実はどういった傾向にあるかについて表A―六の親からみていくと、「よく守る」と答えたのが父親五六人(三七%)、母親が七三人(四九%)とでもっとも多く、逆に「守らない」と答えたのは少数であった。これを表B―六の子供の立場からみると、両親の言付を「よく守る」と答えたのが三七人(二五%)で親からみたときよりも少なくなっている。また、「どちらともいえない」と答えた子供が五一(三四%)あるが、これはその時に応じて守るときも、守らないときもあるという事であって、これらに関しては親の権威不足が感じられるが、その反面、子供に自主性がある事の表われであるともいえる。

そこで、表A―六とB―六を総合すると、親も自分の権威を認め子供もそれを認めている状態と、弱い意味で親も子供も権威を認めていない状態の二つの混合型が考えられる。

## 結 び

以上、これらの点は調査の一部にすぎないが、全般に渡ってみると、親と子供が一致して親自身の權威を認めている親子一致型が、父親とよりも母親とに多く表われている点や父親について親自身が權威があると認めていても、子供はそれを認めていない子供否定型（親肯定型）が表われている事からいって、表面上、母親の權威がかなり高くなっており家庭におけるほとんどの役割は母親が担い、特に子供の監護指導、いわゆるしつけについてはその度が一層強まっている。

父親については、家庭経済が関係してくる問題についてその權威の發揮がみられるが、その他は低姿勢的な面が多く、母親との間にはみられなかったが子供否定型が監護指導の面で父親との間に表われている事をみても、現代の父親の權威は喪失の傾向にあるといえる。したがって父親の家庭における役割は、母親の後楯となって助勢役にまわり、アドヴァイスをほどこしながら一応一家の要役としておさまっているようであるが、子供からは父親の權威行動が認められていない状態にある。父親の權威喪失傾向は、子供にとって重大なことで、それは幻滅の父親としての象徴となって表われ得ることであり、子供の親への依存的態度に変化をもたらす家庭教育そのものを左右してくる。したがって、父親は父として、かつ男性としての模範を示すということを忘れてはならない。

また、育った時代の異なる親子の間で、学校教育のような明確に定められた目標を、家庭教育で実現させようとするのは困難であるのが現実である。したがって可能性のあるものとしては、両親が基本的態度から意識的に子供に働きかけ子供を知る努力をして行く事が家庭教育の出发点となり、親子関係における權威の回復と眞の永続につながるものであらう。

「親の権威と子供」

— 調査表 —

Aは親の、Bは子供の立場

1. 叱正（子供の過失に対する注意） — 特に言葉使いに対して —

表 A-1

親	理 想				現 実			
	父		母		父		母	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
主として夫	42	28	27	18	49	33	32	21
妻というよりは夫	9	6	7	5	6	4	4	3
同等に	29	18	40	27	26	17	36	24
夫というよりは妻	6	4	0	4	3	2	4	3
主として妻	18	12	21	14	36	24	52	35
計	104	68	101	68	120	80	128	86
無 答	46	31	49	33	30	20	22	15
合 計	150	99	150	101	150	100	150	101

表 B-1

子 供	理 想		現 実	
	実数	%	実数	%
主として父	31	21	44	29
主として母	25	17	37	25
同等に	50	33	52	35
母というよりは父	2	1	1	1
父というよりは母	1	1	4	3
その 他	0	0	3	2
計	109	73	141	95
無 答	41	27	9	6
合 計	150	100	150	101

表 A - 2 — 特に過失に対して —

親	父		母	
	実数	%	実数	%
非常に多い	11	7	16	11
かなり多い	65	43	73	49
どちらともいえない	23	15	19	13
かなり少ない	7	5	9	6
非常に少ない	4	3	2	1
計	110	73	119	80
無 答	40	27	31	21
合 計	150	100	150	101

表 B - 2

子 供	父		母		両 親	
	実数	%	実数	%	実数	%
非常に多い	0	7	18	12	5	3
かなり多い	7	5	22	15	27	18
どちらともいえない	6	4	9	6	24	16
かなり少ない	7	5	12	8	3	12
非常に少ない	5	3	0	0	0	0
計	35	24	61	41	59	39
無 答	43	29	17	11	13	9
合 計	78	53	78	52	72	48

## 2. 高価な買物の決定

表 A - 3 ー 決定意見の場合 ー

親	理 想				現 実			
	父		母		父		母	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
主として父	23	15	23	15	34	23	36	24
母というよりは父	1	1	1	1	5	3	2	1
同等に	56	37	65	43	54	36	64	43
父というよりは妻	6	4	4	3	6	4	8	5
主として妻	13	9	9	6	21	14	14	9
その他	0	0	0	0	1	1	1	1
計	99	66	102	68	121	81	125	83
無 答	51	34	48	32	29	19	25	17
合 計	150	100	150	100	150	100	150	100

表 B - 3

子 供	理 想		理 想	
	実数	%	実数	%
主として父	38	25	51	34
主として肉	10	7	19	13
同等に	63	42	70	47
母というよりは父	0	0	0	0
父というよりは母	1	1	2	1
計	112	75	142	95
無 答	38	25	8	5
合 計	150	100	150	100



表 A - 4 ——— 最終決定の場合 ———

親	理 想				現 実			
	父		母		父		母	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
主として父	52	35	41	27	64	43	59	39
母というよりは父	4	3	3	2	3	2	5	3
同等に	24	16	45	30	36	24	46	31
父というよりは母	1	1	0	0	1	1	1	1
主として母	11	7	7	5	13	9	13	9
その他	0	0	0	0	1	1	2	1
計	92	62	96	64	118	80	126	84
無 答	58	39	54	36	32	21	24	16
合 計	150	101	150	100	150	101	150	100

表 B - 4

子 供	理 想		現 実	
	実数	%	実数	%
主として父	39	26	58	39
主として母	11	7	18	12
同等に	59	39	61	41
母というより父	1	1	1	1
父というより母	0	0	1	1
計	110	73	139	94
無 答	40	27	11	7
合 計	150	100	150	101

### 3. 親の「話し」に対する子供の信頼・尊敬度

表 A - 5

親	父		母	
	実数	%	実数	%
非常に高い	23	15	15	10
かなり高い	56	37	74	49
どちらともいえない	31	21	36	24
かなり低い	5	3	2	1
非常に低い	0	0	0	0
計	115	76	127	84
無答	35	23	23	15
合計	150	99	150	99

表 B - 5

子供	父		母		両親	
	実数	%	実数	%	実数	%
非常に高い	4	3	6	4	25	17
かなり高い	9	6	9	6	43	29
どちらともいえない	3	2	8	5	32	21
かなり低い	3	2	2	1	0	0
非常に低い	1	1	1	1	0	0
計	20	14	26	17	100	67
無答	14	9	8	5	16	11
合計	34	23	34	22	116	78

#### 4. 親の言付に対する子供の適応度

表 A - 6

親	父		母	
	実 数	%	実 数	%
非常によく守る	12	8	6	4
よく守る	56	37	73	49
どちらともいえない	42	28	43	29
守らない	8	5	5	3
まったく守らない	0	0	0	0
計	118	78	127	85
無 答	32	21	23	15
合 計	150	99	150	100

表 B - 6

子 供	父				母	
	実 数	%	実 数	%	実 数	%
非常によく守る	5	3	1	1	5	3
よく守る	9	6	9	6	37	25
どちらともいえない	5	3	8	5	51	34
守らない	2	1	6	4	4	3
まったく守らない	0	0	2	1	0	0
計	21	13	26	17	97	65
無 答	18	12	13	9	14	9
合 計	39	25	39	26	111	74

- ・調査対象：父親（150人）と母親（150人）  
その子供〔小学校5，6年生〕（150人）